

# 伝える力

廿日市市立四季が丘中学校

第2学年 村上 茶観

「伝えるカレ

村上 茶観

私たちの世代で、言葉に気を付けている人  
 は、どのくらいいるのでしょうか。インター  
 ネットやスマートフォンが普及している今、  
 人々は様々なメディアを通して、日々の出来  
 事やつぶやきを発信します。しかし、そこで  
 自分が伝えたいことを相手に伝わるように発  
 信している人は、多くいるとは限りません。  
 現代では、若者が使い言葉、いわゆるゆる「若

者言葉「や」略し言葉「ネ」ネット用語が普段の  
 生活でも多く見られるようになりました。例  
 えば、「やばい」「やまじで」「それな」な  
 どがあります。「やばい」という言葉は元来  
 危険な時に使い言葉で使ったが、最近になっ  
 ては、感動したときや、嬉しむとき、驚いたと  
 きなど、マイナスな印象だけでなく、感情  
 が高ぶっているときにも使うようになりまし  
 た。つまり、「若者言葉」において、「やば  
 い」という言葉はどんな場合にも使える、万

能言葉になつたのです。

このことから言くと、私たちは「やばい」の一言で会話を撃げたり、伝えたりすることができる、というわけです。しかし、それは果たして良いことなのでしょう。確かに、私たちが普段感じていることを、一つの言葉に置き換えられるなら、それはとても便利だと思えます。けれども、この言葉に頼りすぎていると、私たちの語彙力は低下していき、言葉の表現力も低下します。ふと心に浮かんだ

だ思いや感情を伝えることさえも、難しくなります。コミュニケーション能力の低下にも

撃がりがねません。若者言葉は決して礼儀正しい言葉ではないです。目上の人に対して使うのはとても失礼であり、マナーが悪いとされます。そして、印象もあまり良くありません。例えば、一つの絵画を鑑賞したとき、一人はその絵画に対して、色

木々の色や水の色に深みがあって、奥行きが感じられると答えました。どちらの印象が良いかと尋ねられたら、後者を選ぶ人がほとんどでしょう。言葉はその人の印象をも表すのです。

いくら数学ができても、絵を描くのが得意でも、スポーツに長けていたとしても、語彙力がなければ相手とコミュニケーションをとるのは難しくなります。相手に与える印象も悪くなります。現代社会では、コミュニケーションシヨン能力を重視しています。現代を生きる私たちにあって、言葉は必要不可欠なのです。様々なソーシャルメディアを使いこなす前に、言葉という伝達メディアを使いこなすことが、今の私たちに必要なのではないかと私は考えます。

## 指導者の言葉

生徒が「書くこと」を苦手としている理由は、大きく二つ。

- ・何を書いていいのかわからない
- ・どう書いていいのかわからない

この課題を克服し、「書くこと」に対する苦手意識を取り除くことを目標として、書きたいことに対する「書き方パターン」などの指導を重ねてきました。特に意見文においては、「読むこと」の教材からも文章の構成や表現の工夫、具体例の挙げ方や反論の仕方など、自分が「書く」ことを意識させながら、参考となる事柄をチェックさせました。

本作品は、今はやりの「若者言葉」、特に「やばい」に注目し、意味の変化とともに便利な言葉として、一方では認めながら、このままでは、本来習得すべき語彙の低下に繋がることを心配し、まずはコミュニケーションの基本である様々な言葉の習得に努めるべきだという意見を具体例を挙げながら述べた文章です。思わず、「なるほど」とうなずける作品です。